



カキ養殖の生産性・付加価値の向上に向けた 養殖技術および衛生管理技術セミナーを開催

2023年2月14日

国際協力機構(JICA)ベトナム事務所

JICAと株式会社ヤマナカ（宮城県石巻市）は、中小企業・SDGs ビジネス支援事業（※）の一環で、2022年6月から、カキ養殖技術の移転と衛生管理基準の啓発に関わる案件化調査「カキ養殖産業の振興に向けた生食用カキの養殖技術及び衛生管理技術の導入可能性にかかる案件化調査」（※※）を実施しています。

2月14日、ヤマナカはベトナムにおけるカキ養殖に関するこれまでの調査結果（養殖の状況や水質、微生物の検査結果、パイロット養殖等）をまとめた最終報告、並びに日本の専門家（漁業、衛生管理、微生物などを専門とする協会並びに企業）による日本のカキ養殖技術及び衛生管理を紹介するセミナーを開催しました。同セミナーには総勢約50名の日越の政府関係者や研究機関が参加し、JICAベトナム事務所井原次長より「本セミナーが高付加価値で生産性の高いカキ養殖技術を広めるきっかけとなり、今後ベトナムの水産養殖農家の収入向上につながることを期待します」と述べました。また、参加者からは宮城県とは水温などの環境が異なる中でどのように適応していくのか、また日本における衛生管理方法などについて、活発な質問が寄せられました。

ベトナム政府は農水産業の国際競争力の強化を目標に掲げており、水産養殖業における高付加価値商品の開発や漁業の生産性向上を通じた水産養殖業者の収入向上もその一つです。漁業水産量はこの10年で4倍ほどに増加しており、カキについても生産量・国内消費量ともに増加傾向にあります。

しかし、ベトナムのカキはほとんど輸出されておらず、生産性の低さ、自然災害に強いカキ養殖基盤の確立、生食可能で高品質なカキの生産等が課題となっています。そのため、養殖技術や衛生管理方法の改善、カキのマーケティングや販路開拓が必要です。

ヤマナカは養殖漁業が盛んな宮城県に本社を置く、海外市場にも水産品を輸出している企業であり、2019年からベトナムにも拠点を置きビジネスを展開しています。本調査では、同社の知見を活かし、ベトナム国においてカキ養殖技術と衛生管理基準の啓発の展開を図り、カキ養殖の生産性と付加価値の向上を実現し、ベトナムにおける自然災害に負けない養殖基盤の確立と現地のカキ養殖に関わる人々の所得向上を目指すことを目的としています。

JICAは引き続き、日越の関係者と共にベトナムの農水産品の高付加価値化やバリューチェーン強化の支援に取り組むことで、これからのベトナム農水産分野の発展に寄与していきます。

以上

お問い合わせ： JICA ベトナム事務所 広報班 関 里緒菜

Tel: (+84-24) 3831 5005 (内線 137) E-mail: Seki-Riona@jica.go.jp